



『トヨタの日常管理板 チームを1枚!で動かす』

(株)OJTソリューションズ(著)
KADOKAWA
(2021/2)
1,650円

トヨタの改善の仕組みが公開された一冊です。製造業でなくても、学びの多い内容となっています。

【感想】

トヨタの全生産現場で活用されている SDCA メソッド「日常管理板」を公開。

* S とは「standardize」「標準化」

トヨタは「日々の改善」が強さの源泉になっていますが、改善を実践するための「しくみ」が「日常管理板」です。5大管理(安全・品質・生産・原価・人材育成)において、部署の目標、個々の目標、目標達成のためのアクション、アクションのプロセス、その数値化、などを1枚に見える化して、計画→チェック→改善→標準化のサイクルを回しています。

製造業のみならず、どの業種においても、人手不足の課題がありますが、限られた人材の中で商品やサービスの質を上げていくうえで、会社の目指すべき基準を「標準化」して、全社員に共有していくことは、より求められていくのではないかと思います。

【以下引用】

・日常管理板の運用

- ① 会社方針に沿った職場方針・目標を立てる
- ② ①のためにクリアすべき管理指標(達成するための数値目標)を決める
- ③ ②をクリアするために、改善活動を行う
- ④ 日々、管理指標の推移をチェックする
- ⑤ ③④の結果、効果のあった改善は「標準化」する
- ⑥ ⑤が遵守できているか、日々チェックして、仕事の質を維持する

・現時点で最も効率的で、最も品質を高められる仕事のやり方を現場の全員で検討し、文書化したものを「作業要領書」と呼びます。

現場の全員がそれを身につけ、誰がやっても効率的に高い品質の仕事ができるようにすることを「標準化」といいます。

・日常管理を導入すると、メンバーが持つ第一印象は「監視されているみたいで、居心地が悪い」「成果がなかなか出ず、気まずいな」といったものです。

それがだんだん成果が出てくると、今度は「数値が改善してきたのを見てほしい」「成果を上げたことを認めてほしい」と変わってきます。

・マネージャーの真の役割とは、突き詰めれば「経営層の思いと現場の頑張りをつなぐこと」です。経営層には「現場は今何に苦労しているか」など現場の声を伝え、現場には会社方針や経営層の思いを伝えて、改善活動の動機づけにします。

どのように会社の方針を目標に落とし込み、それを全社員で共有し、当たり前基準を上げていきながら成果を出していくという観点で非常に面白い内容です。